



発行所 東京片貝会 東京都江東区高橋5-1-313 電話 (632) 0156

午歳・飛躍の春を迎え

新年会のご案内

平成二年一月二十八日(日)午後一時 東京新潟県人会館にて

心晴れやかに新春を迎えられたことと存じます。昨夏、盛大に行われました三十周年を足場に踏まえ、一層会の躍進を期して、左の通り新年会を開催いたします。奮ってご参加下さいませよう、お待ちしております。

記

- 一、日時 平成2年1月28日(日)午後一時(正午より受付)
一、会場 東京新潟県人会館(台東区上野1丁目13-6)
営団地下鉄「湯島」二分(千代田線)、「上野広小路」六分(銀座線)
JR「御徒町」七分
一、会費 五〇〇〇円(料理・飲み物・果物・福引)
一、お願い 恒例の福引をやりたいと存じます。皆様より持ちよりのお年玉をご寄贈いただきました。品名は返信はがきにお書き添え願います。返信は一月二十日必着にてお送り下さい。

吉原芳郎氏著

象山を大笑いさせた男 石黒忠恵の生涯

定価二〇〇〇円 B6・二六八頁

郷土の偉人、石黒忠恵氏は池津の出身。その輝かしい一生も、時の経過とともに、知る人が乏しくなつた。かねて、石黒氏に惹かれていた著者が、その偉業の再認識を訴える。(四面参照) 同著を新年会当日頒布いたします。郵便にて申し込まれる方は、黒崎孝造氏宛送料(天〇〇円)を加えてご送金下さい。

会の動き

創立三十周年記念総会 7月9日 八芳園にて 一面参照
母校を励ます会講演会 11月10日 片貝中、体育館 三面参照

吉原芳郎氏出版記念会 11月19日 勝又・佐藤現前会長 出席 四面
三重堀繁蔵氏逝去76歳 12月2日
前副会長として、又片貝会初期時代の役員として活躍されていたが、逝去された。深く哀悼の意を表します。勝又会長ら葬儀に参加

安達市郎氏、池田市へ転居 近年奥様を亡くされたが、この度ご長男のおられる大阪へ転居。体調回復されれば、帰京の予定
総会ビデオを希望者に 当日の様子を全収録。希望者にお頒けします。実費五千円。はがき又は新年会にて申込んで下さい

心新たに思うこと

会長 勝又 功

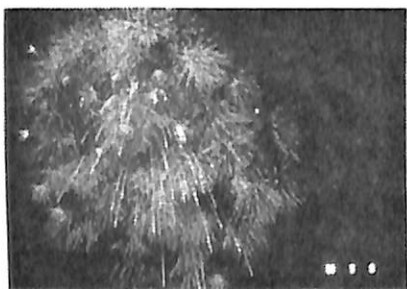
つがなく平成二年の新年を迎えられましたこととお喜び申し上げます。
昨年の第30回総会に当りましては近年にない多数のご出席をいただき、盛會裡に総会が挙行できましたことを、心から嬉しく思うとともに、皆様のご協力を対して、深く感謝申しあげます。
今後とも、一層和の輪を広げて、東京片貝会の発展に努めたく思います。どうぞ引き続き変わらぬご支援をお願い致しまして、年頭のごあいさつと致します。

秋祭り!

心躍る花火の競演

花火のはがき発売 秋祭りも近づく八月末に、花火のはがきが発売された。
四尺玉、四尺玉の玉込め作業、真屋の三尺玉、筒引き、浅原神社の五枚一組で四百円。来年度も、内容を替えて継続の予定という。売れゆきも好調であった。

夜空にきらめく四尺玉、秋祭り人も十四万人の新記録
前後祭は八日の民謡踊りに始まって、九日の古式豊かな筒引きから、片貝まつりの舞があく。
やがて日も昇る頃、小学生の鼓笛隊が町中を行進して、人々の心を



を湧きたたせる。この間、間断なく花火が空に轟く。夜に入ると、例年のようにはない中に開いてしまった。
恒例の大相撲、ま屋の三尺玉なども、つぎつぎ展開されて、神社中心の人は大変なものであった人混みの中を、かき分けかき分け歩行する有様で、終日賑わった。
小千谷新聞の報ずる所によると、今年には土、日になったため、とりわけ賑わったものと思われ、朝日新聞の天声人語にも、祭りが詳しく紹介された。かくて片貝祭りは天下の名物行事となった。

創立30周年記念大会

喜び、空に満ち地に溢れて

平成元年7月9日(日)
東京都港区八芳園

朝から雨はおやみなく降り続いて
いる。八芳園の庭木の緑が、し
っとり美しく濡れている。

正午前から会員が続々と訪れた
やあ、やあと互いに手を取りあつ
て、久々の交流を喜びあう風景が
展開された。

総会

一時に開会、司会は熟達の松井
利夫さん。全員が起立して、これ
まで会の発展に尽くして来られた先
輩各位に、黙祷を捧げた。

開会のことば、相崎善次郎さん
(副)。続いて会長、片貝会は、登
録氏名が千七百名に上るほどに盛
大になった。今日は来賓をはじめ
たくさんの方のご出席を得て意



平成元年
祝 東京片貝会創立三十周年記

代表して、協議会長の山口
益弘氏がお祝いのことばを
述べられた。
閉会のことば、佐藤彦一
さん(副)が挨拶して総会は
終了した。

楽しく懇親の輪

第一部に入つて、司会は
再び松下さんが受けもつて
進行された。

新潟県人会の松波さんを
紹介、記念誌「三十年の
歩み」を解説したあと、

芝三四司さん(副)が、ゼ
ひ名園をゆつくり鑑賞して



強羅子供ばやし保存会

乾杯は浄照寺住職小林文雄師、
「片貝ほどよい町はない、私達は
ほんとに幸せ者である。寺は町の
ためにあるものです、これからも
暖い交流を深めたい」と。

この後、来賓、関市議、佐久間
中学校長、佐藤農協組合長、本田
前組合長、本田観光協会長、山村
子供会長、本田同窓会長、黒崎農
協参事さんが、次ぎつぎに立つて
祝辞を述べられた。

中でも本田さんは、秋祭りの予
告で、四尺玉を二発、三尺玉四発
が上がる。北海道や九州からも、
観覧予約がきている、とのことだ
注目をおひいた。

くり広げられる余興
祝宴の扉は、佐藤正雄さんの
「扇の舞」で開かれた。端正で美し
い姿が場内いっぱいいたよう。
鯉島昭雄さんの歌、山田利雄さ
んの見事な踊りに、一同うっとり
となる。

いよいよ箱根強羅温泉から来て
くれた子供ばやし保存会の少年少
女達のしやがりが始まった。会員
山口三郎さんが、二十年もの間育
ててきたクラブである。

小学生四年から中学生までが、
メンバーで、会員が五〇名あると

いう。今日はその中の約半数がき
てくれた。えんえん三十分間、約
十曲が演奏された。途中では、当
日出席の皆さん十名ほどが、飛び
入りで、合同親善台奏もあり、場
内は拍手と声援で、割れんばかり
の賑わいとなった。
山口さんは、佐藤又次さん(在
棲名町)が私の師匠です、といつ
て佐藤さんを紹介した。佐藤さん
も、ささ嬉しかったことであらう。
みんなの興奮が静まったところ
で、桜井照子さんが美声で演歌を
熱唱。マイナーレも近づいてきた。
ほとんど全員が壇に上つて、木遣
り唄を声高らかに合唱して、きよ
うの喜びを共感しあつた。
かくて五時近く、閉会となつ
た。

- 高桑キイ 佐藤正雄 神林徳次
水内脩治 佐藤量八 相崎尚次
大矢福次 安達宗吾 三重堀繁蔵
昭和21~10
山口ヨシ 本田政秀 早川松太郎
小川茂雄 芝 五郎 日下部政子
吉井武二 安達 武 友田勇四郎
相崎みえ 吉井六郎 小野塚マツ
丸山 春 芋川とし 相崎善次郎
佐藤又次 浅田鉄二 黒崎米太郎
山口三郎 吉原彦作 小宮竹次
鶴田リツ 松井エウ 大内登世
本田松次 黒崎孝造 勝又 功
勝又和子 大矢幸治 芝 三四司
佐藤彦一 堀井豊作 武藤睦子
小宮良夫 黒崎 静 高野八重子
内野アツ
昭和11~20
森本比夫 小川キイ 阿部ナヲ
安藤三好 和田豊次 黒崎良子
高橋四郎 黒崎音吉 太刀川善蔵
浅田鉄夫 小宮秀夫 山口吉五郎
大矢常吉 山田チエ 横見キミ
内海光子 岡 冨子 中野みちよ
小田レウ 藤塚吉雄 黒崎和一郎
山賀豊司 丹治きみ 小宮八重
桜井照子 後藤ミキ 佐藤敏雄
山田利雄 佐藤道雄 松下利夫
小嶋京子 浅田 猛 山田美代治
鈴木すよ 庄司タウ 山口ナミ子
気田登美 浅田栄三 河合小夜子
山口光雄 上田益美 小宮幸雄
西山和子 小宮武夫 中島ヨシ
三重堀清 小野塚洋一 清水ミイ
五十嵐貞雄
昭和21~30
藤塚真澄 新野次郎 阿部修次
安達和三 神林勝夫 山岸慶昭
相崎達一 山本文子 黒崎 正
神林貞俊 佐藤孝二 小野塚 茂

黒崎 勝 吉原武夫 青木マツエ
鯉島昭雄
昭和31~42
平石和子 芝 満雄 藤塚 悟
諸我時夫 吉井信二 加藤素子
平沢和子 藤塚昭子 吉原幸子
渡辺信夫 小宮三郎 渡辺千香子
勝又一司
会員短信
書芸展 黒崎敬五郎氏
ふるさとが誇る書家、同氏の主
催する書芸展が、横浜桜木町のキ
ャラリーで開催された。当日は黒
崎氏の師山崎節堂先生の作品も展
示されて、連日盛会であった。
10月12~17日
ユニークな研究
佐藤祐一氏
母校を励ます会の代表、現在神
奈川大学の助教授として活躍中。
このほどパセリの葉を電極に固
定し、水溶液に含まれるアミノ酸
尿素の濃度を測定された。この結
果、植物に含まれている酵素が、
簡単に検出できるようになった。
今後、この研究の発展が注目され
ている。
星野三作氏 病氣療養中です。
小野 勇氏 多用で総会には欠
席 皆さんの会へのご尽力に感
謝。
佐藤孝二氏 郵政省の定期異動
の時ですが、都合をつけて、是
非とも出席を期しています。
安藤真理子氏 六月十日に同
心会が湯沢であり、29名の皆様
と一夜を楽しく語りあいました
内藤富美子氏 30周年おめで
とつごさいます。行事のため欠席

黒崎 正氏

ビジネスライフよりよく生きる

11月10日 片貝中学校体育館
母校を励ます会8回記念講演

残り少ない秋の陽しさを、体育館いっぱいを受けて、講演会が始まった。

私は茶畑の産で、中学校第三回の卒業生です。長岡高校時代は、佐久間校長先生と三年間机を並べた仲間です。

東京に出てつらい時、悲しい時に、自分を育ててくれた片貝のことが勇気づけてくれました。東京片貝会は、本年創立30周年を迎え7月9日に盛大に行いました。片貝に生まれ、よいふるさとを持つた、と感じています。

私の勤める湯浅商事は、歴史の古い会社で、本年創業三百二十三年になります。徳川四代將軍家綱の時代です。私は一貫して、住宅関連の仕事をしています。私の経



験の中から、お話ししてみたいと思います。

1、社会人としてコミュニケーションを如何にスムーズに運ぶかが大変重要なことです。世の中はすべて人間関係が中心です。その基本は、誠意と情熱と包容力ではないか、と思っています。

自分には徹底的に厳しく、他人には寛大である気持ち、これが心の包容力ではないかと思う。皆さんのクラブ活動でも、チームワークを円満に運ぶため、互いの立場を認めあいながら、誠意と情熱をもって、更に気配り、思いやり、包容力が必要ではないでしょうか。人柄がよい、人物が勝れているという人が必ず備えているのは、心の包容力であり、思いやりです。

包容力のある人は、小さなことで怒ったり、いはったりはしないものです。

住友銀行の磯田会長が、入社式で言われた有名な言葉がありますそれは「あおいくま一です。

あせらず・おこらず・いはらず・くみらず・まよわず、人生はあせってはいけない、しよちゅう怒っても、いはる一方でも困る。試験で悪かった時、今日は面白くない、とくま一はいいけない。また人生の方向を考える場合には、決断が必要です。51%正し

ければ進もうじゃないか、という姿勢が大事です。

2、失敗をおそれず、常に目標を高く設定してチャレンジする。人生は楽しいこと、悲しいこと山あり谷ありで、平坦ではありません。高い目標にチャレンジして失敗をおそれずやりこなす、失敗しても、その要因を徹底的に分析して、次にチャレンジするテーマに生かしてほしい。

ポジティブに考えるということ、陽転思考ということ、一つの失敗を次のテーマに挑戦する時に生かせよということ。ネガティブに悪め悪めを考えて、要因を追求せず、ダメタ、ダメタといっしてしまえば再起不能です。

日本のマラソン史上に君原健二さんがいます。ポストンで優勝し43年のメキシコオリンピックで銀メダルをもらった方です。現在新日本製鉄におられます。

昭和36年代の世界記録は2時間12分でした。しかし彼は1万米を30分で走れることを目標にしたそうです。従って42.195kmは2時間6分35秒であり、当時とすれば、夢のような話です。しかし君原さんは一万平米の日本新記録を樹立し、ポストンで優勝し、メキシコでも銀メダルをとることを果しました3、組織をどう活性化させるか

ばらばらの組織・連帯ある組織それは最終的には、リーダーの統率力の問題です。

ノルウェーは世界有数の漁業国です。港に着く頃には、いわしは殆ど死んでくるそうです。ところが、ある漁師が生かして帰ってきた。なぜそれができたかという時、船の水漕になまを二匹入れておきます。すると、同じ種類の魚同志ならば、港に着く頃には死んでいきますが、なますがいるといわしは、これは大変だと水漕の中を泳ぎまわり、港に着く頃も生きていくということです。

会社には転勤があり、新入社員が入ってきます。その時点で、なます役になれるわけです。皆さんが、今後なます役になるのもよし又生きて帰れるいわしになるのもよいでしょう。

30周年を記念して、

倍額の図書を贈呈
母校を励ます会 報告

今回は各校へ二十万円寄贈しました。購入された図書は左の通りです。皆様の暖かいご支援に対し、心からお礼申し上げます。

小学校

ビテオ 日本の名作 13巻

日本の古典童話 15巻

ジュニア版日本の古典文学 16巻

新潟県地名辞典、日本語大辞典

紙芝居 グリム童話、宮沢賢治

日本むかしむかし 全22巻

中学校

驚異の小宇宙人体 6巻

昭和史 11巻 北極圏 6巻

よいでしょう。

4、企業の人づくりについて
企業では最近特に入づくりの重要性が言われています。各会社とも、相当膨大な費用を出して、研修センターを作っています。経営の神様といわれた松下幸之助、又土光敏夫、本田宗一郎、堤義明さんなど、みな人材の使いこなしがうまく、企業が大きく伸びています。人材といっても、いろいろの人材があります。

1人材 10のことを言われて12実行できる。会社にとって最も重要で、期待通り働く人。
2人材 10言われて10実行する人。会社の戦力となる人。
3人材 10言われて8実行する人。企業にいてもよい人。
4人罪 10言われて5しか実行

できない人。ミスも多く、むしろいない方がよい。
5人災 10言われて2しかできない人。周囲に悪影響を及ぼし、いてもらっては困る人。
皆さんが21世紀に生きる社会人として、1を目標にして頑張ってください。会社において、財産になる人になっていただきたい。
これから経済環境が激しく変化してきます。新しい変革の時代に対応した考え方で進むことが、重要になってまいります。
どうか皆さんの人生の中で、一つでも二つでも生かされれば幸いです。

この日は、小学5・6年生、中学生、町民の方々も多数参加されて、約一時間にわたる講演を熱心に聞き入っていた。

| | | | |
|---|--|--|--|
| 母校を励ます会 収入 56,253 基金(18名) 51,000 利息(銀行) 5,253 全通算会計(昭和58.5.1) 収入 2,374,143 基金(延624名) 2,220,200 利息(割引債・銀行) 153,943 現在高 ¥635,664 | | 会計報告 平成元・12.31 支出 412,062 寄贈図書会 400,000 講演用品 10,000 事務用品 2,062 平成元・12.31 支出 1,738,479 寄贈図書会 1,600,000(7回) 講演会 80,000(8回) 印刷郵券等 58,479 | |
|---|--|--|--|

ふるさと・は・今

光る

母校の活躍

中越地区体育大会で。

六月十二日から十四日まで。各会場での球技の活躍は目ざましかった。

庭球は女子団体戦で優勝し、個人戦でもベスト8に二人が入った。

バスケットボールでは女子が、それぞれ二位となって、県大会への出場権を得た。

八月三日には新潟市で北信越大会があり、県の代表として出場したが、ベスト8まで進出したが、準々決勝で惜しくも破れた。

市内中学校の卓球大会
八月二十日谷中体育館で。

ライオンスクラブの主催で行われたが、女子は団体戦で見事優勝を果たした。また、個人戦でも二位から四位まで入勝して、片貝健児の意気を示した。

同窓会の球技大会
八月十四日総会の後、例年のように、バスケットボール(男性)とバレーボール(男女)を楽しんだ。

今春卒業した高校生から、社会人までがチームを組んで、和氣あいなの中に、世代を越えて親睦を深めた。

市内中、陸上大会 6月13日

球技では、どこにもひけをとらない母校も、陸上競技では奮闘したものの、もう一ふんばりの成績だった。しかし、走幅跳、砲丸投、三種競技では見事優勝した。

小学校のプールが完成
校舎大改築の一貫として、新しいプールができた。

夏休みに入った七月末に間に合っ、全校児童四百人が、喜びの水しぎきをあけた。八月九日には市内の児童を招待して、親善試合も行われた。

プールの完成で、三年がかりの大工事も終わった。費用は締めて五億七千万円という。

児童バスケットに見事優勝
長岡の北部体育館で行われた地区戦で小出小を30対16で破って、四年連続優勝した。十二月に行われる県大会に備えて猛訓練中。

町のスポーツ活動
空手選手権大会 7月30日
浄照寺副住職の小林光紀氏が主宰する空手道場は、設立されて十四年を迎えた。

この日小学校の南運動場で、始めての大会が開かれた。市内をはじめ、長岡などの会場から、多数

の選手が参加して、熱戦をくり広げた。

青年スポーツ大会 8月6日
青年の身心を鍛え、あわせて交流を深めるために、今年始めて公民館と農協が主催して開催された。

会場は中学校の体育館で、65名が参加した。今春高校を卒業した人から、二十五才位の人達が対象で、バレーボールや各種のゲームなどを楽しんだ。

市内壮年野球に優勝
8月17日、市の教育委員会が主催で、第九回目。七月下旬から26チームが参加して、展開されていたが、勝ち進んできた片貝チームは、この日7対0で優勝した。二年ぶりであったが、これで六回も優勝している。

なお町の朝野球には、9チームが五月からリーグ戦を展開していたが七月二十五日の決勝戦で、イーグルスが優勝した。

市の試合に参加した片貝チームは、これらの選抜選手である。

町民大運動会 10月8日
本年度42回目を迎えた。中学校のグラウンドで、町民千人が参加して、地区対抗の熱戦で湧き上がった。惜しくも昼頃から雨となつて、午前で打ち切りとなった。

池津が一位で、続いて町裏、五之町などの順位となった。

ゲートボール大会 春・秋
花火の観覧席に、コートが二面あって毎年春と秋に大会がある。

町内には約二十チームがあり、吉田一雄先生が会長。そのせいかいつも池津のチームが好成绩を挙げ、他県にまで遠征している。

駅伝大会第10回 11月5日
すっかり町の体育行事になった48チームが参加して五区間を走る。老若男女の選手達に、町民の応援も一段と熱が入った。毎年中学生チームが優勢であるが、合計年令二百七十七才の最高年令のチームに、小千谷新聞社賞が贈られた。

薪謡曲を神社に奉納
5月2日、片貝には謡曲の会が四派あるが会員は百名を越えるという。

東京からも先生が来られて、指導を受けており、東京の発表会には町からも21名が参加することになった。これに先きだつて、浅原神社で薪を焚いて、謡曲と仕舞が奉納された。神社始まって以来の催しに、たくさんの方々が鑑賞した。

歩こう会 6月18日
浅原神社を出発して、城址遊歩道の4・5kmを歩いた。親子連れなど三千数名が参加、途中キャンプ場では、大声コンテストもやり和氣あいなの中に帰還した。

芸能まつり 第五回 6月26日
中学生のプラスチックバンドをトップにして、民謡、民踊、琴などが、つきつき演出されて、楽しい一夜を過ごした。来会者四百五十名、小学校の体育館はぎっしり、満員の盛況であった。

新企画で盆踊り 7月15、16日
十五日の踊りは、みんな踊るだけであった。本年は趣向を変えて、同じ卒業年度でチームを作り総合的に審査をして、賞が与えられた。十六日は例年通り、仮装大会が行われ、いずれも人気を博して賑わった。

沼田の火車 7月28日
朝の九時すぎ、本田茂吉さん宅から出火。消防署への通報が遅れたため、十時に鎮火したが、母屋と作業所が全焼した。家にいた老人と幼児は共に無事だった。

本堂でカラオケの響き
8月14日、今回で4回目。生憎の雨で、屋外ステージを浄照寺本堂に移動して行われた。

二百名の聴衆で、身動きもできないほどだった。出演者は二十数名あり、中には歌いながら曲芸する人、衣裳に凝る人など、多彩であった。

審査員には小出新市長も加わり、注目をひいた。賞はアイデア賞、ユーモア賞、若い賞などいろいろ。十時過ぎまで、歌声と拍手がなり響いた。

ゆうパックが人気
秋祭りに合わせて、片貝の特産品の販売が人気を呼んだ。

新野製菓の米菓、池田屋の「四白玉最中」、大津屋の「笹だんご」、栗守酒造の「四尺玉」、山仙の「やたら漬け」、丸平の「火花玉菓子」などの発送を受けた。注文が殺倒して、人気は上々だった由。

総合文化展 11月3、4日
本年度10回目。ふるさと会館にて書、絵画、工芸、写真、陶器など。

明るい町づくりの集い
11月10日、農協ホールで。講演

があり、小中学生五名が心暖まる体験などを発表した。今回で五回目。

吉原芳郎氏の出版記念会
石黒忠恵の実像に迫る

11月19日、前同窓会長の吉原氏が、長い間郷土の偉人石黒忠恵の伝記を調べておられたが、その研究が実って、農協ホールで出版記念が開催された。

石黒氏の子孫の実家を始め、市内の名氏が百名近く参会して盛大だった。勝又会長、佐藤前会長も東京から出席した。

会員の皆さんの一読をお勧め致します。(二面参照)

あとがき
40号をお届けします。私が編集したのは13号、昭和50年から、この間、15年間会報発行に関わってきたことになりました。記念誌も出版されたことであり、今回以後の会報も保存されると、引続き会の歩みが、資料となることでしょう。新年会では、又県人会館でお会いし、互いの健康を喜びあいたいものです。ぜひご出席を(佐藤)

て、同じ卒業年度でチームを作り総合的に審査をして、賞が与えられた。十六日は例年通り、仮装大会が行われ、いずれも人気を博して賑わった。

沼田の火車 7月28日
朝の九時すぎ、本田茂吉さん宅から出火。消防署への通報が遅れたため、十時に鎮火したが、母屋と作業所が全焼した。家にいた老人と幼児は共に無事だった。

本堂でカラオケの響き
8月14日、今回で4回目。生憎の雨で、屋外ステージを浄照寺本堂に移動して行われた。

二百名の聴衆で、身動きもできないほどだった。出演者は二十数名あり、中には歌いながら曲芸する人、衣裳に凝る人など、多彩であった。

審査員には小出新市長も加わり、注目をひいた。賞はアイデア賞、ユーモア賞、若い賞などいろいろ。十時過ぎまで、歌声と拍手がなり響いた。

ゆうパックが人気
秋祭りに合わせて、片貝の特産品の販売が人気を呼んだ。

新野製菓の米菓、池田屋の「四白玉最中」、大津屋の「笹だんご」、栗守酒造の「四尺玉」、山仙の「やたら漬け」、丸平の「火花玉菓子」などの発送を受けた。注文が殺倒して、人気は上々だった由。

総合文化展 11月3、4日
本年度10回目。ふるさと会館にて書、絵画、工芸、写真、陶器など。

明るい町づくりの集い
11月10日、農協ホールで。講演

があり、小中学生五名が心暖まる体験などを発表した。今回で五回目。

吉原芳郎氏の出版記念会
石黒忠恵の実像に迫る

11月19日、前同窓会長の吉原氏が、長い間郷土の偉人石黒忠恵の伝記を調べておられたが、その研究が実って、農協ホールで出版記念が開催された。

石黒氏の子孫の実家を始め、市内の名氏が百名近く参会して盛大だった。勝又会長、佐藤前会長も東京から出席した。

会員の皆さんの一読をお勧め致します。(二面参照)

あとがき
40号をお届けします。私が編集したのは13号、昭和50年から、この間、15年間会報発行に関わってきたことになりました。記念誌も出版されたことであり、今回以後の会報も保存されると、引続き会の歩みが、資料となることでしょう。新年会では、又県人会館でお会いし、互いの健康を喜びあいたいものです。ぜひご出席を(佐藤)

あり、小中学生五名が心暖まる体験などを発表した。今回で五回目。

吉原芳郎氏の出版記念会
石黒忠恵の実像に迫る

